

講師資格認定オーディション 『筆記試験対策』 ～オルガン科R5／ピアノ科R5～

2009年春に行なわれた講師資格認定オーディションの筆記課題について、試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説をしていきます。この解説を参考にして問題のポイントを押さえ、次の受験の準備にお役立てください。

このページでは、オルガン科R5とピアノ科R5を取り上げます。オルガン科R4～R2および、ピアノ科R4～R2は本誌P.9～14に掲載しています。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科【R5】 ■ ■ ■ ■ ■

R5では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、ミュージック・アトリエの機能やRMS音楽教育システムについての問題が出題されます。また、R5ではすべての問題が選択形式もしくは○×形式となっており、記述形式の問題は出題されません。そのため、ひとつひとつの選択肢をよく見て、しっかりと落ち着いて試験に臨むことが肝要です。

今回の試験で特に正答率が低かった問題は、楽典の総合問題の「提示された楽譜の中の、線で結ばれた2音間の音程を答える問題」でした。不正解となった解答の多くは、同小節内の臨時記号の見落としによるものであったことから、慌てず慎重に楽譜を確認することで確実に正答を導き出してください。

I. これから、音楽を5曲流します。曲にふさわしい言葉をそれぞれ①～③より一つずつ選び、番号で答えなさい。

設問 3. ①管弦楽 ②吹奏楽 ③室内楽

正解：①管弦楽

試験会場で流れた音楽は、チャイコフスキーの「交響曲第6番「悲愴」の第3楽章」でした。曲名を知っていれば自ずと答えを導き出すことが可能ですが、もしそうでない場合は、流れてくる音楽をその場で聴いて判断することになります。不正解となった解答の多くは「②吹奏楽」を選択していました。流れた音楽は、曲の一部を抜粋したものでしたので、その部分のみを聴くと曲全体の雰囲気から吹奏楽のマーチのよ

うに感じられたのかもしれませんが、しかし、よく耳をすませて聴いてみると、弦楽器も鳴っていることがわかるはずですよ。聴こえてくる楽器の種類に慎重に耳を傾けてみましょう。

「吹奏楽」は「木管楽器と金管楽器を主体とし、さらに打楽器も加えた演奏形態」、「管弦楽」は「管楽器(木管楽器、金管楽器)と弦楽器の両方を揃えた演奏形態」ですから、今一度確認しておきましょう。

III. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

8 beat ♩ = 110

(10) (11) (18) (12) (13) (19)

◎曲中の線(10)～(13)で結ばれた2音間の音程を①～⑤より選び、番号で答えなさい。

設問 12. (12)

- ①完全5度 ②増5度
③減5度 ④長5度 ⑤短5度
正解：③減5度

設問 13. (13)

- ①完全3度 ②増3度
③減3度 ④長3度 ⑤短3度
正解：④長3度

◎曲中の□(18)、(19)に囲まれた部分にあてはまるディグリー・ネームを①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 18. (18)

- ①I 6 ②II m ③IV 6 ④VI m
正解：④VI m

まず、設問 12. と 13. から見ていきましょう。冒頭でも述べた「2音間の音程を答える問題」です。設問 12. では、不正解の「①完全5度」とする解答が目立ちました。(12)の場合、その音自身に臨時記号が付いていなくても、直前のE音に付いたりばは同小節内では有効ですから、正解は「③減5度」となります。同じことが設問 13. にも言えます。くれぐれも臨時記号を見落とさないように注意しましょう。

次に、設問 18. を見てみましょう。ディグリー・ネームは、主和音に対してどのような音程関係にあるかを示す相対的な和音の表記法ですから、まずは曲の調性を判断することが必須となります。この譜面は、調号とコード進行の両面から判断すると、へ長調であると言えるので、主和音がFとなります。(18)のコードはDmですので、主和音Fに対して長6度の関係の和音であることから、正解は「④VI m」となります。

ピアノ科【R5】

R5では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、指導法に関する問題やRMS音楽教育システムについての問題が出題されます。今回の試験では、聴音問題の“リズム聴音”や、音楽教育システムについての問題の正答率がやや低かったようです。

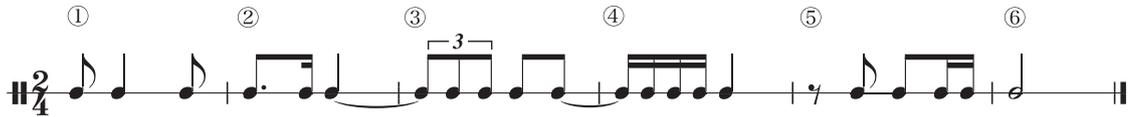
リズム聴音では、細かいリズムの違い、例えば8分3連符と16分

音符のリズムの違いなどを慎重に聴き取るようにしていきましょう。

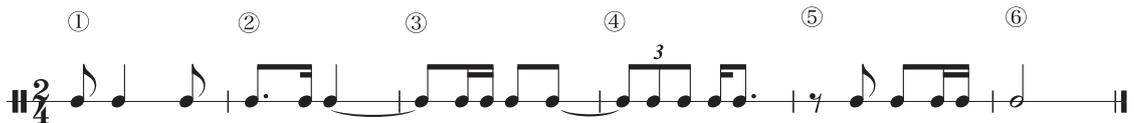
また、音楽教育システムに関する知識は、ローランドRMS音楽教室の講師として活動するにあたって必要ですので、冊子「RMS音楽教育システムについて」などで事前にしっかりと確認しておくとういでしょう。

II. (2)リズム聴取

設問7. これから演奏するリズムと、次の楽譜とをくらべ、各小節内のすべてのリズムが正しいものには○を、1カ所でも異なっているものには×を記入しなさい。(3回演奏)



実際に演奏されたリズム:



正解：① ○ ② ○ ③ × ④ × ⑤ ○ ⑥ ○

3小節目を○、5小節目を×とする解答が目立ちました。特に3小節目は3連符のリズムが含まれているため、少々難しく感じるかもしれません。しかし、3連符のリズムの聴取にはコツがあります。リズムというものは、そもそも感覚的な要素が強いものです。実際に身体で3連符の独特のリズムを感じ取るように意識してみましょう。この課題のように

部分的に3連符が混じっている曲の場合は、その前後のリズムとの明らかな違いがわかるはずです。3回の演奏を有効に使っていきましょう。

また、5小節目のように、1拍目が休符の場合は混乱しやすいようです。たとえ音が鳴ってなくても拍の頭をしっかりと意識するようにしましょう。

IV. 設問22. 次の文章の□にあてはまる言葉を①～④より選び、番号で答えなさい。

・スタッカートにスラーがかけられている記号を (22) と呼び、音符の約 $\frac{3}{4}$ の長さで奏することを意味する。

①レグジェーロ ②マルカート ③スタッカーティッシモ ④メゾ・スタッカート 正解：④メゾ・スタッカート

メゾ・スタッカートの表記方法には、スタッカートにスラーがかけられているものと、テヌート記号の付けられているものがあります(右記譜例参照)。



いずれも音符の約 $\frac{3}{4}$ の長さで奏することを意味しますが、スラーを使うメゾ・スタッカートの場合は、ヴァイオリンなどの弦楽器の楽譜では弓を返さずに(一弓で)演奏することを示すので注意しましょう。

ちなみに、不正解の中では「②マルカート」とする解答が多く見られ

ました。マルカート (marcato) は「音のひとつひとつをはっきりと演奏する」という意味の発想標語です。残りの選択肢も見ておきましょう。レグジェーロ (leggiero) は「軽く優美に」、スタッカーティッシモはメゾ・スタッカートとは逆に、音符の約 $\frac{1}{4}$ の長さで奏することです。

V. (3) 次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～③より選び、番号で答えなさい。

設問27. ベートーヴェンが作曲したピアノ協奏曲第5番は、「(27)」と名付けられた。

①運命 ②英雄 ③皇帝 正解：③皇帝

選択肢にあがっている3曲は、いずれもベートーヴェンの中期における代表的な作品です。「運命」、「英雄」はともに交響曲、「皇帝」はピアノ協奏曲ですから混乱しないようにしましょう。この第5番「皇帝」は、ベートーヴェンの残した全5曲のピアノ協奏曲のうちもっとも有名な1曲と言える

でしょう。

ローランドRMS音楽教室では、クラシックのさまざまな時代の作品がピアノ曲にアレンジされて教材として扱われています。ベートーヴェンなど代表的な作曲家の主要な作品は、くまなくチェックしておくとういでしょう。

VI. (2) 次の問いに、○×で答えなさい。

設問43. 最新のヒット曲や話題曲を収録した楽譜集「RMS Music Pieces」には、ピアノ科、オルガン科ベーシックコースの級に準じてアレンジされた曲が、それぞれ4曲ずつ、全8曲収録されている。

正解：×

生徒用機関誌の付録として隔月に発行されている楽譜集「RMS Music Pieces」には、オルガン科/ピアノ科ベーシックコース14-12級、11-9級、8-6級、5-2級に該当する8曲と、大人の初心者向けの「ポピュラーピアノ楽譜」1曲の合計9曲が収録されています。

これらの収録曲は、演奏オーディションやRMSオルガン・ミュージックフェスティバル小学生部門Eの課題曲にもなっていますので、楽譜集の自身についてもきちんと把握しておくとういでしょう。システムを正しく理解していることが、生徒や保護者の方との信頼関係にもつながるはずです。

講師資格認定オーディション 『筆記試験対策』 ～オルガン科R4-R2/ピアノ科R4-R2～

2009年春に行なわれた講師資格認定オーディションの筆記課題について、試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説をしていきます。この解説を参考にして問題のポイントを押さえ、次の受験の準備にお役立てください。
本誌P.6～7に掲載したオルガン科R5とピアノ科R5に引き続き、このページでは、オルガン科R4～R2および、ピアノ科R4～R2を取り上げます。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R4] ■ ■ ■ ■ ■

実際の音楽を聴いて答える問題では、R5では編成、ジャンル、様式などを選択する問題でしたが、R4では楽器名を選択する問題になります。今回の試験では、この問題の正答率が特に低かったようです。

例えば木管楽器においては、フルートのようにリードを持たない楽器とオーボエのようなダブルリード楽器とでは音色の違いが顕著であり、比較的判断しやすいでしょう。しかし弦楽器においては楽器の大きさは変わるもののどれも弦を弓でこすって音を出す楽器であることから、音を聴いただけでは判断に迷

うこともあるかもしれません。また金管楽器の場合も、楽器の形は異なるものの唇の振動を管に伝えて音を発する仕組みは同じですから、正解を導き出すことが難しくなります。

この問題への対策は、各楽器のソロや、ピアノとの二重奏の曲を聴いたり、木管においては木管五重奏など、楽器がひとまとまりになっている曲を、楽譜を追いながら聴いたりしてみるなど、各楽器の音色やその特徴をしっかりと耳で覚えるようにすると良いでしょう。

I. これから、音楽を5曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より一つずつ選び、番号で答えなさい。

設問 1. ①ヴァイオリン ②チェロ ③ヴィオラ

正解：③ヴィオラ

設問 4. ①トランペット ②ホルン ③トロンボーン

正解：③トロンボーン

設問 1. から見ていきましょう。試験会場で実際に流れた曲は、バルトークの「ヴィオラ協奏曲の第二楽章」でした。曲名を知っていればやさしい問題かもしれませんが、そうでない場合は主旋律を奏でる楽器が何であるかを慎重に耳で聴き分けることとなります。

まず、弦楽器であることはすぐにわかるでしょう。ここでは、その先の判断の方法について考えてみましょう。各楽器の音域についてはどうでしょうか。ヴァイオリンの最低音は「G音」ですが、主旋律がG音よりも低い音域に達していることに着目し

ます。よってヴァイオリンは選択肢からはずれます。

一方、ほかの楽器についてはどうでしょうか。チェロは音域が広いので、ヴィオラとの判断が難しいところです。そこで、それぞれの楽器音の特徴から判断する必要があります。

ヴィオラの低音は、ほかの楽器にはない独特の渋みのある音色となっています。これは、ヴィオラの胴の長さがほかのヴァイオリン属の楽器よりも音域に比してコンパクトに作られていることが一因となっていますが、このことから判断すると、正解は「③ヴィオラ」となります。

次に、設問 4. を見てみましょう。会場では曲の一部を抜粋したものが流れますが、ここではラヴェルの「ボレロ」より、トロンボーンのソロの部分が流れました。このソロはトロンボーンの最高音に近いところまで達するため非常に演奏が難しく、トロンボーン奏者泣かせと言われています。場合によってはホルンのよ

うにも聴こえるかもしれませんが、ときおりトロンボーン特有のスライドを用いたボルタメントが聴こえてきますので、そこから判断することができるでしょう。

このように、楽器の奏法についても注意を払っておくことが必要です。

IV. (2) 次の文章の□にあてはまる言葉を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 24. シアターオルガンは (24) □ オルガンを劇場用にしたものである。

①パイプ ②コンボ ③ホーム ④リード

正解：①パイプ

シアター・オルガンは、19世紀後半から20世紀にかけて、無声映画の伴奏用としてアメリカ全土で活躍しました。パイプ・オルガンと同じく、パイプによって音を発生させる仕組みとなっていますが、パイプに風を送るふいごの代わりに送風モーターを使用したり、音色タブレットを電磁石で動かしたりと随所に電

気を活用しています。

ミュージック・アトリエには、パイプ・オルガン、ジャズ・オルガン、シアター・オルガンなど、豊富な音色が搭載されています。それぞれの歴史的背景や特徴について知っておきましょう。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R3] ■ ■ ■ ■ ■

R3では、移調譜を実音譜にして五線に記す問題が出題されるなど、これまでより記述問題の割合が増えてきます。また、聴音課題においても、解答が○×形式ではなく実際の書き取り

となりますので、日頃から五線に音符を書く習慣を付けておくことが大切です。

Ⅲ. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Vivace

(12) (11) (14)

(13)

設問 10. 下から 2 段目のパートはアルト記号で書かれていますが、へ音記号を使って記譜する場合どのように書くことができますか。5～8 小節のみ、解答用紙の五線に記しなさい。

正解:

設問 11. 曲中の□ (11) に囲まれた部分にあてはまる和音記号を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ① I ② V7 ③ IV ④ VI 正解: ② V7

設問 10. は、アルト譜表で記譜された譜面をへ音譜に書き写す問題です。アルト記号は主にヴィオラの標準的な音部記号として使用され、第 3 線が真ん中のド (へ音記号の上第 1 線のド) にあたりますので、それを手がかりに書き写してみても良いでしょう。

また、記譜の際はスタッカートや強弱記号など、音符以外の部分に関する書き忘れも多く見られました。元の譜面から見落とさないよう十分に注意しましょう。

設問 11. は、曲中の指定された部分の和音記号を答える選択問題です。まずは、構成音からコードネームを導き出してみましょう。そのためには非和声音の判別が必要ですが、一番下の

パート (チェロ) の C# は次の B 音へ向かう「倚音」と解釈することができます。よって、この部分のコードネームは B7 となり、この譜面がホ長調であることから、正解は「② V7」となります。

V. (1) 次のコードの中で、← で示された音がコードのどの構成音になっているかを、それぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 26.

[選択肢]

① 9th ② b 13th ③ 6th ④ 13th 正解: ④ 13th

テンションを含むコードの中で、指示された音がコードの第何音となっているかを答える問題です。まず、コードの基本の構成音として、ルート、3rd、5th、(7th) が挙げられます。これらの音はときとして省略される場合がありますが、コードの響きを決定付けるものです。したがって、まずはこれらの音を拾い出してコードネームを導き出し、それ以外の音はテンションと考えてみま

しょう。ここでは、Gb、Bb、Fb がそれぞれルート、3rd、7th で、Gb をルートとしたコードであると解釈できます。Eb をテンションと考えると、正解は「④ 13th」です。ちなみに、Eb は 6th と考えることもできますが、7th コードでは 6th は使用しないため、適切ではありません。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R2] ■ ■ ■ ■ ■

音楽を聴いて編成、ジャンル、様式を答える問題では、例えば「カルテット」、「クインテット」、「セクステット」などが選択肢に加わり、より細かく分類されて出題されます。つまり、流れてくる音楽が何人編成によるものであるかについて慎重に聴き分ける能力が必要です。例えば木管楽器や金管楽器の場合、単音楽器ですので、同

時に最大3つの音が鳴っている場合は3人編成であると判断できません。しかし弦楽器の場合は重音奏法も可能ですから、微妙な音色の違いによって重音奏法であるか別のパートであるかを聴き分ける必要があるでしょう。このように、R2ではより広範囲からさまざまな能力を問われます。

II. (I) 旋律聴取

設問 6. イ長調、4分の4拍子、8小節(6回演奏) ※ 調号、拍子記号、小節線は各自記入のこと。

正解:

限られた回数の中で正確に聴き取るには、演奏を聴いたときに瞬時に音程やリズムに反応できるようにしておかなくてはなりません。日頃からコツコツと、聴音に取り込むことが必要です。

と4小節目にフレーズの切れ目があることが自然に感じ取れるはずです。とくに4小節目は半終止となっていますので、おのずと4分の4拍子であることが判断できるでしょう。

設問 6. の正解の譜面を見てください。演奏を聴くと、2小節目

III. (3) オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 21. ミュージック・アトリエで Lower Split されたソロパートの音色は、そのほかの Lower の音色と重ねることができない。 正解: ×

ミュージック・アトリエでは、Solo To Lower モードが「LAYER」のとき、ローパートの音色は通常通りローキーボードすべての音域で演奏するこ

とができますが、Lower Split されたソロパートの音色はスプリット・ポイントを含む高い音域でローパートの音色に重なって演奏されます。

IV. (1) 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

8 beat ♩ = 132

三段譜の中のテンションを含むコードについて、指定されたコードネームに沿って空欄に音符を書き入れる問題です。コード構成音のどの音をトップノートに持つてくるかによって響きが変わってきますから、横のラインも考えながら、最良のボーイングを探していきましょう。なるべくトップノートが半音や全音で進行していくラインを形成できれば、とても心地よいでしょう。

◎コードネームに従って、□ (29) ~ (33) の空欄に音符を書き入れなさい。前後の関係も考慮して、ポジションや省略する構成音も工夫すること。(二分音符、または全音符で記入。)

解答例: 8 beat ♩ = 132

■ ■ ■ ■ ピアノ科 [R4] ■ ■ ■ ■

R4では、楽典の問題の中に「非和声音」の種類を答える問題が加わります。非和声音の種類と特徴について、今一度確認しておきましょう。

よう。また、楽語についてはR5よりさらに広範囲から出題されます。教本に出てくるものについては最低限しっかりと押さえておきましょう。

Ⅲ. 次の問いに答えなさい。

Allegro moderato

◎曲中の(10)～(13)の音の種類を①～⑤より選び、番号で答えなさい。

設問 12. (12)

①経過音 ②倚音 ③保続音 ④掛留音 ⑤和声音

正解：③保続音

設問 13. (13)

①経過音 ②倚音 ③保続音 ④掛留音 ⑤和声音

正解：②倚音

◎曲中の(19)の部分を和声分析した場合、何終止と言えますか。①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 19.

①完全終止 ②半終止 ③偽終止 ④変格終止

正解：①完全終止

楽譜は、シューベルトの「楽興の時 第3番 op.94-4」からの抜粋です。

まずは、設問 12、設問 13 から見ていきましょう。いずれも「非和声音」の種類を答える問題です。設問 12 では、楽譜 11～15 小節にかけてのバスの動きに注目してください。Ab 音がずっと保持されながら、その上にさまざまな和音が移り変わっているのがわかります。この Ab 音を「保続音」と言います。保続音はバスに現れることが多いですが、上声部にも現れることがあります。

設問 19 は終止形の種類を答える問題です。主和音（Ⅰ度）の基本形で終止している場合は、たとえ曲の途中であっても「完全終止」となります。よって、正解は「①完全終止」です。ちなみに、半終止は曲の読点として属和音を置く場合を指し、偽終止は属

また、別名「オルゲルプンクト」、「ペダルポイント」などとも呼ばれます。

次に設問 13 を見てみましょう。ここでは、直前の音も Bb 音であるため、「掛留音」と勘違いしやすいかもしれませんが、しかし、「掛留音」はしっかりとした予備があり、十分にその音が期待されている状態であるのに対し、「倚音」は「予備なしの掛留音」とも呼ばれ、音がぶつかる感覚に近いものです。したがって、正解は「②倚音」です。

和音から主和音への解決を期待させながらⅥ度、Ⅲ度などの和音へ進行、終止する場合を指します。また、変格終止（アーメン終止）は賛美歌の最後によく見られる「下属和音（Ⅳ度）から主和音へ解決して終止する場合」を指します。

Ⅲ. 次の問いに答えなさい。

◎次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 15. 「pesante」 ①上品に ②重々しく ③悲しげに ④決然と

正解：②重々しく

「pesante」のわかりやすい使用例として、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」より「牛車」があります。楽想標語としては比較的使われる頻度は低いかもかもしれませんが、実際の楽曲と関連

づけてイメージすると覚えやすいでしょう。ほかには、バルトークのピアノソナタやシェーンベルクの「浄夜」などで象徴的な使われ方をしていますので参考にしてみましょう。

V. (1) 次の旋律は何調ですか。選択肢より選び、番号で答えなさい。

設問 32.



[選択肢]

①八短調 ②変口短調 ③八長調 ④イ長調 ⑤変口長調 ⑥二短調 ⑦嬰へ短調 正解：⑤変口長調

調判定の問題です。選択肢のうち、最も自然であり根拠のある調判定が望まれます。ここでは、1～3小節ではト短調とも判断し得るメロディーの流れですが、4小節目ではFナチュラル音

によってト短調と平行調の関係にある変口長調の半終止と考えられます。選択肢にト短調はないことから、⑤変口長調を選択する根拠となるでしょう。

■ ■ ■ ■ ピアノ科 [R3] ■ ■ ■ ■

R3からは、聴音課題の解答が○×形式ではなく、実際の書き取りとなります。聴音の基本的な取り方をもう一度確認しましょう。

〈聴音のポイント〉(R3、R2 共通)

1. 利き手と反対の手で、拍をしっかりと刻む。

3拍子の場合、1拍目を中指、2拍目を人差し指、3拍目を親指で、4拍子の場合には1拍目を薬指から始めて、机もしくは体をそっと叩きます。そのとき、大きな音を出して周りの人の耳障りにならないように気をつけましょう。

2. 1回目は各小節の頭の音、または休符を書く。

拍子を正確に数えて、「リズム(音の長さ)」や「各小節の1拍目以外の音」は無視するくらいの気持ちで、各小節の第1拍目だけに集中しましょう。音符がないときは休符なのかタイなのか見極めます。

か見極めます。

3. 各小節の頭の音が取れたら、細部を埋めていく。

1回目で書き込んだ各小節の頭の音を意識しながら、まずは音の高さを書き込みます。続いて各拍頭にあたる音を探し、徐々に細部のリズムを判断していきます。

4. 空白がないようにする。

楽譜中に空白があると不完全小節となり、未完成とみなされます。空白を残さないように、できる限り音符を書き込む訓練を日頃から積んでおきましょう。

和音聴取のポイントは、5回流れる演奏を効率よく聴き取ることです。例えば、比較的聴き取りやすいソプラノ、バスから書き取り、その後内声を埋めるというように、予め配分を決めて臨むとよいでしょう。

IV. (2) 下の文は、「ポルカ」についての説明文です。文中の□(22)～(24)にあてはまる言葉を埋め、文を完成させなさい。1830年頃、(22)に起こり、19世紀末までヨーロッパで熱狂的にもはやされた、ポーランド、ボヘミアの舞曲。速いテンポの(23)拍子で、三部形式になっており、(24)の作曲した「ピッツィカート・ポルカ」や「トリッチ・トラッチ・ポルカ」などが有名である。

正解：(22) チェコ(ボヘミア) (23) 2 (24) J.シュトラウス

ポルカは、チェコ(ボヘミア)で生まれた舞曲です。J・シュトラウスはたくさんのポルカを残しましたが、ほかにも、ドヴォルザークの「チェコ組曲」や、チャイコフスキーの「子供のための

アルバム」の中にもポルカが存在します。代表的な舞曲の特徴や起源についてはひと通り確認しておきましょう。

IV. (3) 次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 30. <ピアノの詩人>と呼ばれるショパンは、(30)曲のピアノ協奏曲を作曲した。

① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4

正解：② 2

ショパンは39歳という短い生涯でピアノ協奏曲を2曲残しています。2010年はショパン生誕200年という記念の年であり、また

5年に1度のショパンコンクールが開催される年でもあります。これを機会に、ショパンの作品について今一度確認しておきましょう。

■ ■ ■ ■ ピアノ科 [R2] ■ ■ ■ ■

音楽を聴いて編成、ジャンル、様式を答える問題が、R5よりもさらに専門的に出題されるようになります。

また、全体に選択問題は少なくなり、記述形式で答える問題が多くなります。実際の五線に記譜する形式の問題も多くなりま

すので、なるべく日頃から楽譜を書く習慣を付けておきましょう。その際は、読みやすい楽譜が書けることはもちろんのこと、臨時記号の付け忘れなどにも十分に注意しましょう。

I. これから、音楽を5曲流します。あてはまる言葉をそれぞれ①～④より一つずつ選び、番号で答えなさい。

設問 1. ①弦楽四重奏 ②ピアノ五重奏 ③ピアノ四重奏 ④ピアノ三重奏

正解：④ピアノ三重奏

会場で実際に流れた曲はラヴェルのピアノ三重奏曲の第二楽章でした。ピアノが鳴っているというのにはすぐにわかりますが、曲の出だしは弦楽器のピッチカートが混じっていますので、編成の正体をつかむのは難しいかもしれません。しかし、後半に入ると

ピアノに加えてヴァイオリンとチェロのユニゾンが聴こえてきますので、ピアノ三重奏曲だということがわかります。また、そもそも曲名を知っていれば即答できる問題ですので、日頃からさまざまな編成の楽曲を聴く習慣を付けておくのと良いでしょう。

IV. (1) 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Allegro moderato (♩ = 108)

設問28. メロディーを吹いているEs管のアルト・サクソフォーンは移調楽器です。実際に鳴る音を、調号を用いて解答用紙の五線に記しなさい。

正解:

Allegro moderato (♩ = 108)

楽譜は、ビゼーの「アルルの女」より「間奏曲」(抜粋)です。冒頭の荘厳なトゥッティを経てこの美しいアルトサクソの旋律が現れます。

正解の譜面を見てみましょう。実音は記譜より長6度低くなります。不正解の解答の中には、音自体は正しく捉えられていたものの、長

6度より1オクターブ高い短3度上での記譜がいくつか見受けられました(これはちょうどソプラニーノサクソの実音と同じになります)。

また、記譜の際はスラーや拍子記号など、音符以外の部分に関する書き忘れも多く見られました。元の譜面から見落とさないように、十分に注意しましょう。

IV. (2) 次のコード・ネームや和声記号を実際の音符に書き改めなさい。その際、大譜表の下の段にベース、上の段に3つの音を密集配置で記しなさい。

設問33. g-mollのV₉¹

正解:

和音記号に付いている斜めの線は“根音省略形”を表します。第5音(A音)がベースになっている解答がいくつか見られましたが、「第1転回形」とは「第3音を最低音とした和音」のことで、たとえ根音が省略されたとしても最低音は第3音でなくてはなり

ません。

また、第9音がE音になっている解答もいくつかありました。mollの場合、第9音が(Durと比べて)半音下がることも要注意です。